

RCV

Red Cross Volunteer

2020.11
No. 75
November



盛岡市赤十字奉仕団の手作りマスクをつけたハートちゃん
のぬいぐるみ

1 新型コロナウイルス感染拡大下での 赤十字ボランティアの活動

2 新型コロナウイルスの3つの顔
負のスパイラルを
みんなで断ち切ろう！
新しいボランティアのかたち

3 献血とボランティア
～安定した血液供給を支えるために～

4 令和2年7月豪雨で活躍
無線奉仕団
第50回 朗読録音奉仕者感謝の集い
全国表彰を受賞
編集後記・コラム



#みんなで乗り越える

新型コロナウイルス感染拡大下での

赤十字ボランティアの活動

新型コロナウイルスの感染が拡大し、普段どおりのボランティア活動ができない中でも、全国の赤十字ボランティアは率先して新型コロナウイルスと向き合う人々に寄り添った活動を行っています。



お礼状やお手紙も
たくさんいただきました!!



マスクづくり
全国で

74,409枚

(10月25日現在)



マスク作りについてインタビュー



全国の中でもいち早くマスク作りに取り組まれた高島市地区
赤十字奉仕団(滋賀県支部)の榎原委員長にお聞きしました!!

マスク作りをはじめたきっかけ

日本でコロナウイルスが広がりはじめた時、私たちに何か出来ることはないか考え、高島市が“織物の街”であることを思い出しました。それを活かして“マスクを作り”で少しでも役に立てればと考え行動に移しました。

どのように手作りマスクを作ったのか

マスク作りは、誰でも家庭で作れるものと考え、布マスク(ガーゼ・ゴム紐)を選びました。まずはガーゼを用意し、他の材料や道具は個人で準備してもらいました。



YouTubeで
マスク作りの動画を
公開しています!!

感染対策のため、各自の家で分業して作成しました。50名ほどの団員で協力して作業しました。

マスク作りで困ったこと感じたこと

マスク作りの時に、材料である“耳掛け用のゴム紐”が、個人でのマスク作りが世間で広がりはじめたためか不足したので、太いゴム紐を細く切って代用したりと工夫しました。

出来たマスクは、市役所を通して各福祉施設などに配布しました。また、家庭でマスクが用意できない子ども向け小学校にも届けました。後日配布先から、感謝のお手紙やお礼の電話があり、役に立てた事が嬉しかったです。

今後の活動について

マスクの他に防護服や座布団なども作り提供しました。今後は冬用マスクなども作る予定で、“織物の街”ならではの活動が出来ればと思っています。また男性も女性も積極的にボランティア活動ができる場所にしていきたいです。

※動画の詳細は「高島市ホームページ」内で「マスクの作り方」で検索ください

医療従事者等のための衛生資材作り

感染症拡大を受けて、一部の医療施設や福祉施設では衛生資材が不足する事態が発生。ニーズを受けて、各地の赤十字ボランティアがビニールエプロンやフェイスシールドなどを身近なものから工夫して作成し、各施設へ寄贈しました。



SNSキャンペーンの実施



(赤十字ユース委員会)

赤十字ユース委員会では、**#みんなで乗り越える**をつけて、今自分ができることを発信するSNSキャンペーンを提案し、全国の青年赤十字奉仕団を中心に活動しています。



(愛知県支部)



最前線で働く人へ感謝のメッセージ

各地のボランティアが、手紙、動画やお花のプレゼント、SNS投稿等を通して、最前線で働く人々に感謝を伝えました。



(姫路市赤十字奉仕団)



(長野赤十字看護専門学校学生赤十字奉仕団)



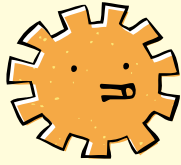
(北陸大学学生赤十字奉仕団)

もっとボランティアの活動内容を知りたい方はコチラ▶ <http://www.jrc.or.jp/volunteer>



新型コロナウイルスの3つの顔

負のスパイラルをみんなで断ち切ろう!



ワタシには
3つの顔がある
ふっふっふ…

新型コロナウイルスによる感染が流行しています。実はこのウイルスが怖いのは、「3つの“感染症”」という顔があることです。知らず知らずのうちに私たちも影響を受けていることをみなさんをご存知ですか？

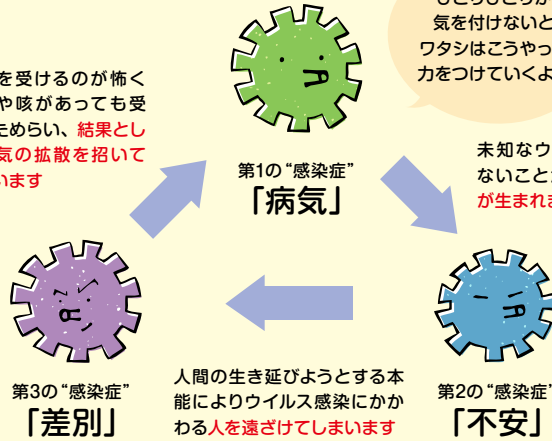
3つの“感染症”はつながっている

この“感染症”の怖さは、病気が不安を呼び、不安が差別を生み、差別が更なる病気の拡散につながることで。新型コロナウイルスは、3つの“感染症”という顔を持って、私たちの生活に影響を及ぼします。このウイルスとの戦いは、長期戦になるかもしれません。それぞれの立場でできることを行い、みんなが一つになって負のスパイラルを断ち切りましょう!

差別を受けるのが怖くて熱や咳があっても受診をためらい、結果として病気の拡散を招いてしまいます

ひとりひとりが気を付けないとワタシはこうやって力をつけていくよ…

未知なウイルスでわからないことが多いため不安が生まれます



ガイドはこちらから



第1の“感染症”「病気」を防ごう

一人一人が衛生行動を徹底して感染を防ぐ!



手洗いがいを呼びかけ
(北陸大学学生赤十字奉仕団)



正しいアルコール消毒方法の紹介
(熊本県青年赤十字奉仕団)



マスクやビニールエプロンを作成し、福祉施設などへ
(全国各地の赤十字ボランティア)



第2の“感染症”「不安」を防ごう

自分を見つめ「気づく力」、「聴く力」、「自分を支える力」を高める!



趣味の時間を持ったり、心地よい環境を整えたり…
自宅での過ごし方やメッセージを動画で発信
(赤十字京都ユース)



高齢者サロン利用者に対して電話かけ
(君津市赤十字奉仕団)



第3の“感染症”「差別・偏見」を防ごう

確かな情報をもって、差別的な言動に同調しない。この事態に対応しているすべての方々にねぎらい、敬意を。



赤十字奉仕団が地域の方々にガイドを配布
(南区赤十字奉仕団など)

誰にでもあることなので感染した人を攻撃してはいけません! と思いました

ユースボランティアが、中学生に向けて講義「Dignity for all ~感染症流行時においても全ての人々に人間の尊厳を~」(赤十字京都ユース)



ガイド発信に向けての会議
(神奈川県青年赤十字奉仕団)

どうすればみんなで助け合え、差別や偏見を防げるのか、子どもたちが考えるきっかけになれば

好きなことをしたり考えたりして自分の心を強くする!

SNSを通じて一人でも多くの方に“ウイルスを持つ本当の怖さ”や、ウイルスに対する“いま私たちができること”を伝えよう!



感染予防や、差別・偏見防止のメッセージを届ける歌を作曲
(京都府青少年赤十字賛助奉仕団)

動画と楽譜はこちらから



発想の
転換!

新しいボランティアの **かたち**

withコロナ

地域での活動を継続するため、感染対策を行いつつ新しい形で活動をしている奉仕団も！
そんな工夫や新たなアイデアの例をご紹介します。

こんな形もあります



集まって行う
会議や研修、イベント



見守り活動

福祉施設訪問

サロン活動

子供食堂、炊き出し

室内での体操

オンライン開催に変更

- オンラインで開催することで、他県の人も参加可能に
- 自宅から参加できるので、日程調整もスムーズに



支部と協力してオンライン救急法短期講習を開催
(東京都青年学生赤十字奉仕団協議会)

オンラインで実施した定例会には5府県からユースが集結!
(石川県青年赤十字奉仕団)



お手紙を送る

- 訪問できず、お会いできない方々へメッセージを作成
- 情報誌を作って、情報提供する方法も



子どもたちや高齢者に向けて、自宅で作成したメッセージカード
(宮城県青年赤十字奉仕団)



電話する

- 近況をお話するだけでも

交流掲示板

- 人が行きかう場所に設置

SNS発信

愛知県内の青年赤十字奉仕団5団で協力し、子どもに向けておみやみやや工作を紹介



お弁当配達

対象者を限定し、時間を区切る

屋外で実施

- 外の空気を吸ってすがすがしく!
- 通りすがりの人にも興味を持ってもらえるかも…!



迷うことや悩むことがあれば、支部指導講師や職員に声を掛けてみましょう



他団体の活動もヒントに!

未来の **つながり** アクション

新型コロナウイルス下での“つながり”をあきらめない地域福祉・ボランティア活動交流サイト

詳しくは下記URLまで
<https://tunagari-action.jp/case/>



新型コロナウイルスの感染が懸念される状況におけるボランティア・NPO等の災害対応ガイドライン

新型コロナウイルスの影響下では、「支援者が感染を広げないこと」、「支援者の安全を確保すること」を遵守し、被災者の命と暮らし、尊厳を守るため、必要な支援をどうやって行うかが、大きな課題となっています。

ボランティア・NPO企業等の「支援者」を対象に、新型コロナウイルス影響下での災害対応の判断基準となる指針を示すとともに、行政等の関係者への周知を進めるために、全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)が、関係団体とともに議論を重ね作成しました。

詳しくは下記URL内「ガイドライン」まで
<http://www.jvoad.jp/>





献血とボランティア

～安定した血液供給を支えるために～



献血とは、病気の治療や手術などで輸血や血漿分画製剤を必要としている患者さんのために、健康な人が自らの血液を無償で提供するボランティアです。血液は長期間保存することができないため、輸血等に必要血液を確保するためには、一時期に偏ることなく、継続的に献血にご協力いただく必要があります。コロナ禍でも、安定した血液供給を支えるべく活動するボランティアにお話を伺いました。



献血ルームボランティアの方にインタビューしてみました!!

ボランティアをはじめたきっかけと普段の活動内容を教えてください。

ボランティアをはじめたきっかけは、免許の更新の際に献血をしたことです。それまでは全く興味がなかったのですが、それ以降約20年間、献血活動をしてきました。今は年齢の関係で卒業しましたが、献血は273回しました。

普段は、神奈川県内の献血バスや献血ルームで年間100日を目標と呼び込みの活動をしています。



“コロナの影響で、血液製剤が足りなくて命を落とす人がいてはならない”1人でも多くの人の手助けをしたいです。

活動を楽しむコツ：
肩の力を抜くこと、人間観察

横浜Leaf 献血ルーム
個人ボランティア 関さん

献血ルームではイベントを実施していると聞きましたが

各献血ルームでは、献血者を対象にボランティアによるハンドケアや占いなど様々なイベントを実施しています。横浜Leaf 献血ルームでは、その他にもコーヒー講座、司法書士による法律相談など珍しいイベントも…!(*時期によります) 神奈川県救護赤十字奉仕団が毎月行う救急法講座には、私も指導員として参加しています。献血の約2週間後には、書面等で血液成分の結果を知ることができ、健康状態のチェックに役立てられると感じています。

RCVの読者の方に一言お願いします!

神奈川県では、1日約900人分の献血を必要としています。献血ルームでは、献血だけではなく、イベントに参加したり、献血後におやつを食べながらくつろいでいただくこともできます(ルームによって異なります)。横浜Leaf 献血ルームでは、Wi-Fiを通したり、モバイルバッテリーの貸し出しを行うなど気軽に立ち寄れるカフェのような環境を準備しています。ぜひ、お近くの献血ルームにお立ち寄りください。



献血を支えるボランティアは日本全国で活躍中!

| | |
|--------------------------------|--------|
| 個人ボランティア (広報、接遇、ハンドケア・占いなど) | 967名 |
| 学生の献血推進ボランティア | 5,190名 |

献血ボランティアは、個人やグループで活動を行っています。献血の呼びかけをはじめ、献血イベントの運営、企画・準備、献血者の接遇や献血会場における献血者の案内、電話やハガキによる献血協力の依頼などを行っています。



横浜Leaf 献血ルーム職員
岩田さん

職員からボランティアの方々への思い

ボランティアの方々は、広報やイベントの手伝いなどいつも献身的な姿勢で活動をしてくださっており、感謝の気持ちしかありません。献血活動はボランティアの方々によって支えられています。現在コロナ禍で大変ですが、お互いに力を合わせて共に乗り越えていきたいです。

献血ってどれくらい必要なの?

安定的に血液を供給するためには1日あたり約13,000人のご協力が必要です。

横浜Leaf 献血ルームではどのような感染対策をされていますか?

献血ルームでは、マスク着用とアルコール消毒を徹底し、入口での検温、飛沫防止のためのビニール貼りや仕切りなどの対策をしています。また、混雑回避のため事前予約をお願いしています。

献血を受けるまでの流れは?



みんなで献血の大切さを広めよう!!



令和2年7月豪雨で活躍

無線奉仕団

無線奉仕団とは アマチュア無線の資格をもつ人たちが、災害時に迅速且つ的確な情報伝達を行い、赤十字の災害救護活動を支援しています。



今回は熊本県無線赤十字奉仕団野崎さん、星子さんに取材しました



令和2年7月豪雨で活動している様子。

令和2年7月豪雨での活動について

7月4日熊本市災害情報メールにより大雨警報が発表され、県支部防災センターへ赴きました。被災地の団員のほとんどが被災及び停電のため、通信が難しい時期もありましたが、鹿児島県の中継機を通じて、球磨郡あさぎり町の局とコンタクトが取れました。

無線での情報収集により、未だ携帯回線、電話回線が不通であることを確認。被災地で自家発電用の燃料が不足しているという状況が判り、球磨郡の無線奉仕団員に消防隊への要請を指示しました。

また、無線機の要望もあったことから、日本アマチュア無線連盟熊本県支部長あてに連絡し、10台のハンディ無線機を用意してもらいました。

12日以降、携帯電話回線が部分的に回復したため、無線による情報収集活動を終了しました。

今後の無線奉仕団活動について

今回、八代市坂本町において通信機能が麻痺していることが判り、すぐ対策を協議し、7月15日現地に入りましたが、道路崩壊のため目的地へ到達出来ませんでした。被災地に入れない状況の中でも、沢山の中継局がこまめに設置されていれば…。と今後の課題となりました。

現在、無線を使っている方の減少と高齢化が見られ、それは無線奉仕団も同様です。今後は、災害の発生頻度が高まると言われています。ボランティアへの認識が高まり、無線奉仕団へ協力する方が増加することを期待し、無線利用者同士のネットワークをより大切にして活動を行ってまいります。



地図で派遣先の中継地点を探している様子。



防災センターから無線を使い災害の情報確認をしている。

普段の無線奉仕団の活動について

災害時などに備えた熊本県での防災訓練や他県との通信訓練、情報収集などを主にしています。

その他にも日赤県支部の企画やイベントへ参加するとともに、無線の公開運用やパネル展示での広報活動など様々な活動を行っています。

無線機のメリット

無線を持っている人同士であれば、いつでも、どこでも、だれとでも通信が出来、携帯電話で電波が届かない場所やインターネットの回線が不通になってしまった場面でも通話をすることができます。災害時や急を要する場面でも、瞬時に対応することができる点です。

これまでの活動で一番印象に残っていること、嬉しかったことは何ですか？

活動で関係する方々が皆さんとても優しく、知らない土地や場所でも快く情報を教えてくれるのでとても嬉しいとともに人と人の繋がりを感じます。



これまでの災害での主な活動

- | | |
|----------|--|
| 平成24年 | 九州北部豪雨 |
| 平成28年 4月 | 熊本地震では自らも被災者に。他県の支援を受け非常時通信ネットワーク設備を設置 |
| 6月 | 大雨警報発令時の情報収集 |
| 10月 | 阿蘇火山第一火口大噴火時の情報収集 |
| 平成29年 7月 | 台風3号接近時の情報収集 |

第50回記念

朗読録音奉仕者感謝の集い 全国表彰を受賞

受賞者について

DAISY編集奉仕者

札幌市音訳赤十字奉仕団 佐藤 洋子さん

活動年数 19年11か月

DAISY編集時間 11,560時間

図書内容 小説、随筆、広報誌



音訳のきっかけは、本を読むことが好きだったからです。新聞で音訳ボランティア養成講座のことを知り、「自分の好きなことをして、ボランティアができるのはなんていいこと!」と思い、応募しました。DAISY編集はとても興味深く、利用者の方々にも少しでも聞きやすいように音訳することを心がけています。

デイジー(DAISY)とは

デイジーは、読みに困難のある方(視覚障害、識字障害、発達障害、ページをめくるのが困難な肢体不自由、紙アレルギーなどの方)も読書ができる電子書籍です。本文を音声で読み上げて読書ができます。

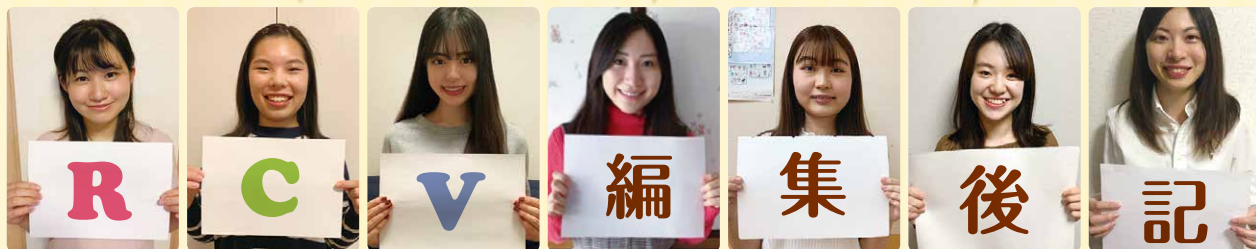


地区表彰では、同奉仕団の篠原千賀子さん(朗読録音区分)、蝦名依子さん(校正区分)も受賞されています。

新型コロナウイルスで移動が制限されている中、何か私に出来ることはないかと考え、RCV編集委員に参加させていただきました。編集委員としての活動を通して、普段からボランティアをされている方々のすごさを感じました。(明治学院大学 及川惠美)

赤十字ボランティアの活動を調べていくなかで、改めて人との繋がりを感じました。私は、無線奉仕団の方にインタビューする機会があり様々なことを知り、更に詳しく調べる端緒となりました。RCVを読み、「私達は繋がっている」ということが伝われば幸いです。(聖心女子大学 時田久留美)

オンラインではあるものの、チームみんなと話し合ったり、ボランティアや職員の方にインタビューしたり、素敵な時間を過ごすことができました。私たち学生の思いが詰まったこの冊子をより多くの方に読んでいただきたいです。(上智大学 村上真性)



コロナ禍でのボランティアについて、どのような情報が読者の皆様にとって役立つかを考えることは、自分自身の活動のあり方を考える良い機会でもありました。人々が孤立しやすい現在ですが、このRCVを通してボランティアという人と人との繋がりを再確認して頂けたら幸いです。(上智大学 岩原明音)

高島市の奉仕団に取材させて頂いた時、ボランティアを行う上で大切なことは今、自分たちにできることを考え、それを実際に行動にうつすことなのだと感じました。委員皆で何度も話し合い、完成させたこの情報誌に一人でも多くの方が興味を持ってくれたら嬉しいです。(明治学院大学 高橋美稀)

直接会わずに編集作業を進めるのは大変でしたが、皆さんの新しいアイデアや考え方に触れられたり、業者の方との打ち合わせを見学したりと、とても貴重で有意義な体験をすることができました。この冊子を通して多くの人のボランティア活動を支えることができれば嬉しいです。(上智大学 菅谷さくら)

作成の際、実際に会わずに話し合いをすることは緊張しましたが、他の編集委員の意見をたくさん知ることができ、オンラインでインタビューさせていただけたことは貴重な機会だったと感じています。コロナの状況下でも試行錯誤しながら活動されているボランティアの方々の姿をお伝えすることができたなら幸いです。(上智大学 片山咲)

RCV No.75は、パートナーシップ大学(上智大学、明治学院大学、聖心女子大学)の、個人ボランティアが編集委員を務めました。

column 愛知県内青年赤十字奉仕団発案 ハートラちゃん折り紙



- 用意するもの
- 折り紙や正方形に切った紙
 - ハサミ
 - 色鉛筆やクレヨンやペン (ハートラちゃんの顔を書くときに使います)

- ① 正方形の紙を三角に折ります。
- ② 右図のように上から台形を作るように折ります。
- ③ 台形の端を上に向けて三角形を作るように折ります。
- ④ ③を裏返し、上の三角形の部分を開き、正方形を作ります。
2つとも正方形を作ってください。
- ⑤ ④を裏返し、両端を中心に向かって折ります。
- ⑥ 右図の赤の線のように耳をハートの形になるようにはさみを使い、切ります。
- ⑦ 耳の部分の端を小さく三角を作るように折ります。

にっせき おうちキッズプロジェクト

普段から赤十字病院の小児病棟で工作教室を行っている愛知県内の青年赤十字奉仕団5団が合同で、家で過ごす子どもたちのストレスを緩和するためインスタグラム(aichi_red_cross_youth)でおりがみや工作を紹介しています。



みなさんの声

大募集

RCVをよりよい情報誌にするために、みなさまのご意見をぜひお聞かせください!

- ① 今号の特集へのご意見・ご感想
- ② こんな特集が見たい!
「こんな活動がしたい!どこかでしていないかな」。知りたい活動はありませんか?
- ③ 活動を全国に伝えたい!
掲載したい活動がありましたら、ぜひお知らせください。
- ④ RCVをメール配信しています! 配信をご希望の方は送信先のメールアドレスをご記載ください。

上記①~④をご記入のうえ、メールにて rc-volunteer@jrc.or.jp までお送りください。

QRコードからもご回答いただけます



赤十字ボランティアへの

参加について

日本赤十字社の活動は、全国のボランティアによって支えられています。あなたも、「苦しんでいる人を救いたい」という思いを行動に移してみませんか?

赤十字ボランティアへの参加は、日本赤十字社各都道府県支部・施設で受け付けています。

Webページで

赤十字 ボランティア

検索



Facebook



Twitter

でも逐次情報を更新しています!

